

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100452		
法人名	NPO法人グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム我家我家		
所在地	岐阜県多治見市小泉町4-228		
自己評価作成日	令和5年8月31日	評価結果市町村受理日	令和5年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigvovocd=2171100452-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過になり色々な活動を制限されているが、その間は御利用者一人一人のケアに重きをおいて取り組んできました。医療との連携の強化の一つとして、訪問歯科との連携を強く持ち、肺炎予防や口腔ケアの必要性を進めてきました。実際コロナ過に入ってからでは体調を崩される方も少なく、約3年御利用者の入れ替わりもありませんでした。日頃から連携各所と共に取り組みを行ってきた成果かと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅地にあり、近隣住民と良好な関係を構築している。子ども110番の家や福祉避難所など、事業所としての地域貢献を行っている。職員が働きやすい環境が整っており、有給休暇や希望休などの休みの取りやすさや、外部研修の受講、キャリアパス制度等、職員育成の仕組みが整っている。これらが職員のモチベーションにつながり、より良いサービスの提供にも繋がっている。
職員は、学習療法の導入などで、利用者一人ひとりの残存能力を引き出せるような関わり方を心がけ、利用者の脳の活性化に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各事務所に置いて理念の共有を行い、掲示をしている。理念に関するコンプライアンスチェックを定期的に行っている。	職員間で理念の共有が図れるよう、毎月、コンプライアンスチェックとして、法人が大切にしていることを振り返ることができるよう、仕組みとして行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過にてイベントの参加の呼びかけは出来ていない。	地元自治会に対しては、協力金という形で関わりを持っている。コロナ禍以前は、夏まつりに住民を招待をするなど交流があった。現在は中止しているものの、子ども110番や福祉避難所として、地域の中で事業所が役割を担っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過での推進会議は資料提供という形で実施。意見交換については電話連絡や面会が再開した時点で聴き取りを行っている。	運営推進会議は、感染対策としてホームとは別の離れた公民館を活用するなど工夫し、多くの家族が参加できるように土日開催としたり、声掛けを行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者からのメールの受け取り、必要時には直接連絡、またはメールにて対応。	コロナ禍以前からもメールを使い、行政とは様々な形で連携を図っている。また、必要に応じて地域包括支援センターとも連携を図り、相談を行っている。子ども110番や福祉避難所としての登録もある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ過にて集まる事も極力控えていたため、職員間で随時身体拘束廃止についての資料提供を行ってきた。	身体拘束についての指針を持ち、職員間において研修を実施したり、定期的な学びの機会を整えることで、身体拘束について職員が深く理解できるようにしている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にスタッフ同士で目を配り、お互いに虐待、スピーチロック、羞恥心等に配慮できるように声掛けを心がけている。	職員会議では虐待に関する資料を基に、スピーチロックや羞恥心に関する事例を取り上げ、学習をしている。生活の場では、スタッフ同士が目を配り、問題点があれば遠慮なく話し合い、早いうちに虐待の芽を摘み取れるように心がけている。	

岐阜県 グループホーム我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング実施時に確認を出来るようにしており、常に関連できる資料を置いている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には見学から始まり、書面での説明をしっかりと行うようにしている。契約から入居までスムーズに行えるように支援を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は常にお聞きし、ご家族についても管理者以外のスタッフでも話しやすい環境を作っている。要望も出来る限り反映できるように心がけている。	運営推進会議などには、多くの家族の参加を得て、意見を受け止めることができる体制が整っている。「我家我家便り」や職員手書きの状況報告書には利用者の様子が細かく記されており、家族からの喜びの返事もある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場に入ること、日頃からスタッフとのやり取りを大事にしている。代表についても毎月の管理者会議にて意見交換を行っている。	現場を兼ねる管理者は、毎月の職員会議以外でも、積極的に職員と意見交換が出来るよう雰囲気作りに努めている。職員からは、個々の業務が明確で仕事がやりやすく、職員同士のコミュニケーションもスムーズとの声がある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度に基づき、年2回の個別面談と共に、職員の給与アップに勤めている。勤務についてもそれぞれのスタッフの要望を聴きながら、休みの取りやすい環境を心がけている。	管理者は職員が働きやすいよう、有給休暇や希望休、休憩場所の確保など、環境を整えている。年2回の個別での面談では、職員の意見や希望を丁寧に聴きとり、ストレスなく働ける職場環境作りに努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過においてはリモート研修への参加、ミーティングなどに置いて勉強会や資料提供を行っている。	キャリアパスや外部研修への参加など、職員が多くを学び、成長できるよう仕組みを整えている。また、毎月のミーティング時には、テーマを設けながら資料提供するなど、個々の資質向上を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同種施設との意見交換や情報交換を定期的に行うよう心掛けている。他社との勉強会などはコロナ過により実現できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者同士の交流が円滑に行なわれるようにスタッフが間に入って、関係性を保っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方がやってみたい、やりたいといった事を常に会話の中でお聴きしながら、出来得る限りの思いに答えるよう検討している。	入居時に、家族に記入してもらうシートを活用することで、本人の趣味嗜好やこれまでの生活歴など丁寧に把握している。入居後も本人との会話や表情などからアセスメントをしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの聞き取りに始まり、カンファレンスでの検討を通じて御利用者御家族様への理解と協力をお願いしている。	ケアプランには、把握した本人の希望や家族の希望が落とし込まれている。訪問歯科医からの評価も書き加えるなど、他の専門職の意見もプランに反映がなされている。	モニタリングを行い、生活状況や認知機能などを広く評価している。ケアプランにおいて実施されている点も評価し、本人の抱える課題が達成されたのか、評価ができるよう様式が整うことを期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に1度の見直しをおこない、その時々合った支援方法を計画に繁栄出来るよう心がけている。ご家族の思いなどもお聞きしている。	タブレット端末を活用し、日々の記録を行ない、職員間で利用者の情報を共有している。介護計画や支援方法等、3か月に1回、見直しも行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過ではあるが、それぞれの方が思うニーズをお聴きし、日頃の支援に生かせるようにしている。	個々のニーズに応えるため、管理者が中心となり利用者一人ひとりの状態に沿って、対応をしている。学習療法を希望している人には、公文式学習療法を取り入れるなど、柔軟な対応を可能としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で地域との関りが持てていないが、世間の動向を見ながら実施計画を立てれるよう努力をしていく。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医との連携を常に行い、入居者の体調管理に努めている。医療対応が必要な時は連携を取り迅速に対応出来る体制を取っている。	本人・家族が選択している。多くの利用者は月2回、協力医の往診を受け、訪問看護師による身体観察も定期に受けている。個々の希望により、歯科医や口腔衛生士の訪問もあり、適切な医療を受ける事が出来ている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な時には主治医と連携して迅速に対応している。なるべく早く退院して戻ってこれるような体制を病院関係者と密に連絡を取るようにしている。	退院前のカンファレンスには、管理者が参加している。また、医療機関とホームの連携が図れるよう地域連携室ソーシャルワーカーとの連絡を密にしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望者は終末期の対応をしており、主治医、訪問看護と共に連携をして、情報共有を行っている。対象者についてはDrとのカンファレンスにて方向性を周知していくようにしている。	重度化・看取りに関する指針を書面にて説明し、同意書を交わしている。看取りについては、必要な時期に医師や関係者と話し合いが行われ、常時、医療行為を伴わない自然な看取りとしている。職員は、訪問看護師より看取りに対する学びを得ている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開催が可能な時には年一回、救急救命講習を受講し、それ以外は訪問看護との連携にて処置、対処方法の指導を行ってもらっている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、通報訓練を行い非常時に迅速に動けるように取り組んでいる。非常時に活動の確認が取れるよう見やすい位置に掲示を行っている。	避難訓練では入居者もベランダまで避難する訓練を行うなど、災害に備えた準備ができています。また、隣にある介護施設とも協力関係はできている。BCPIについては現在、見直しを行っている。	事業所は、福祉避難所としても位置付けられており、地域住民とも連携を密にする必要がある。緊急連絡網などに地域の自治会や民生委員などが加わることで、相互に連携が図れることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から否定的な言葉には注意し、肯定的な言葉かけを投げかけられるよう心がけている。居室やトイレの使用時にプライバシーの確保の為”ノック”をしっかりと行い、また、ミーティングなどにおいても勉強会の実施をしている。	排泄や入浴介助の際には、羞恥心に配慮し同性介助の有無を確認している。個々に合わせて声かけし、誇りを損ねないよう支援をしている。入室時には、ノックや声かけをし、プライバシーの確保に努めている。職員は、コンプライアンス調査表記入を毎月行なっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己の意志決定を出来るような声かけを心がけ、○○されますか？などの選択が可能な声掛けを心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などはその方のペースやその日の体調に合わせて調整を行っている。一日の流れについても、一人一人の行動を尊重している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目の前で調理をする事で、季節感や調理方法など会話をしながら、その方の食事への興味を持って頂いている。手伝える方には包丁を私用して調理も行ってもらっている。	食事は毎食手作りで提供している。職員が家庭的な味付けで調理し、入居者は香りや音でも料理ができる過程も楽しむことができている。食材は地元スーパーから仕入れ、季節感を感じられるよう配慮がなされている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事と10時、15時など水分量の記載を行う事で、脱水予防に努めている。食事量についてもその方ごとのプレートを使って毎食事確認を行うように心がけて得ている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後には口腔ケアのチェックリスト使用して実施している。毎週、訪問歯科、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。	口腔衛生について積極的に取り組んでいる。毎週訪問の歯科医師・歯科衛生士の助言に沿って、口腔ケアチェックリストを使用し状態を確認している。歯科医師や歯科衛生士からの助言は、ケアプランにも活かされている。	

岐阜県 グループホーム我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時系列のチェックリストを作成して、排泄のリズムやパターンを確認している。介護用品を使っている御利用者についても、なるべくトイレの出しの排泄を促していくよう取り組んでいる。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日の中で入浴ができる時間は決まっているが、入る、入らないについてはご本人の意見を尊重し、無理に実施はしていないが、チェックリストを使用する事で、満遍なく入浴が実施出来るように心がけている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や状況を把握して、居室で休んで頂けるような声掛け、誘導を行っている。環境についてもエアコンの使用はしっかりと行うようにしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は常に閲覧できる位置に保管し、服薬についてはチェック方法を常に見直し、現在はスリーチェック方法で行っている。服用間違いや飲み忘れをなくすようにしている。	薬剤師の訪問時に服薬情報を確認し、職員間で共有、3段階のチェック方法を実践し、誤薬防止に努めている。職員は利用者の症状を常に観察し、変化があれば管理者や訪問看護師に伝え、指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアを前提として、それぞれの能力に合った対応方法などを日頃から検討している。	家族の協力を得て、利用者個々の好きな事や得意な事を把握し、学習療法や習字、体操やカラオケ等を楽しみながら参加できるように支援している。また、利用者の自己決定を尊重した行事食やおやつ作り、「デザートビュッフェ」も実施している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為実施できていない	9月より家族との外出を再開している。天候に応じて、ドライブや外気浴を取り入れることで、利用者の気持ちを切り替えたり、リフレッシュできるように支援している。	

岐阜県 グループホーム我家我家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、お金に対してはご家族管理となっているが、対象者がいる場合は個別管理表を使用して管理していく。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す事や電話を掛ける事についてはご家族様との協議によりタイミングなどを決めて実施している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力季節感が出るよう、共有スペースには掲示物の展示などを行い、常に空調管理に気を配っている。玄関にはイベント時の写真などが閲覧できるよう掲示し、花壇も使用しながら季節を感じられる工夫をしている。	玄関には季節の花を飾り、イベントでの様子が見える写真等を飾っている。季節によっては生け花レクを行い、利用者が活けた花を飾っている。季節に合わせた利用者や職員の共同作品は、ホールや廊下にも掲示されている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室は設けてあるが、一人の空間作りとしては居室を前提として、過ごしやすい環境を提供している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には表札を設けたり、居室内では自宅で使用していた物を持ってきて頂いたり、なじみのある環境を整えている。冷蔵庫以外の持ち込みは基本OKとしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	会話の中でご本人がやりたい事を聴きだし、安全にできる事については支援をしている。人としても自信を持って頂けるような取り組みも支援として行っている。		